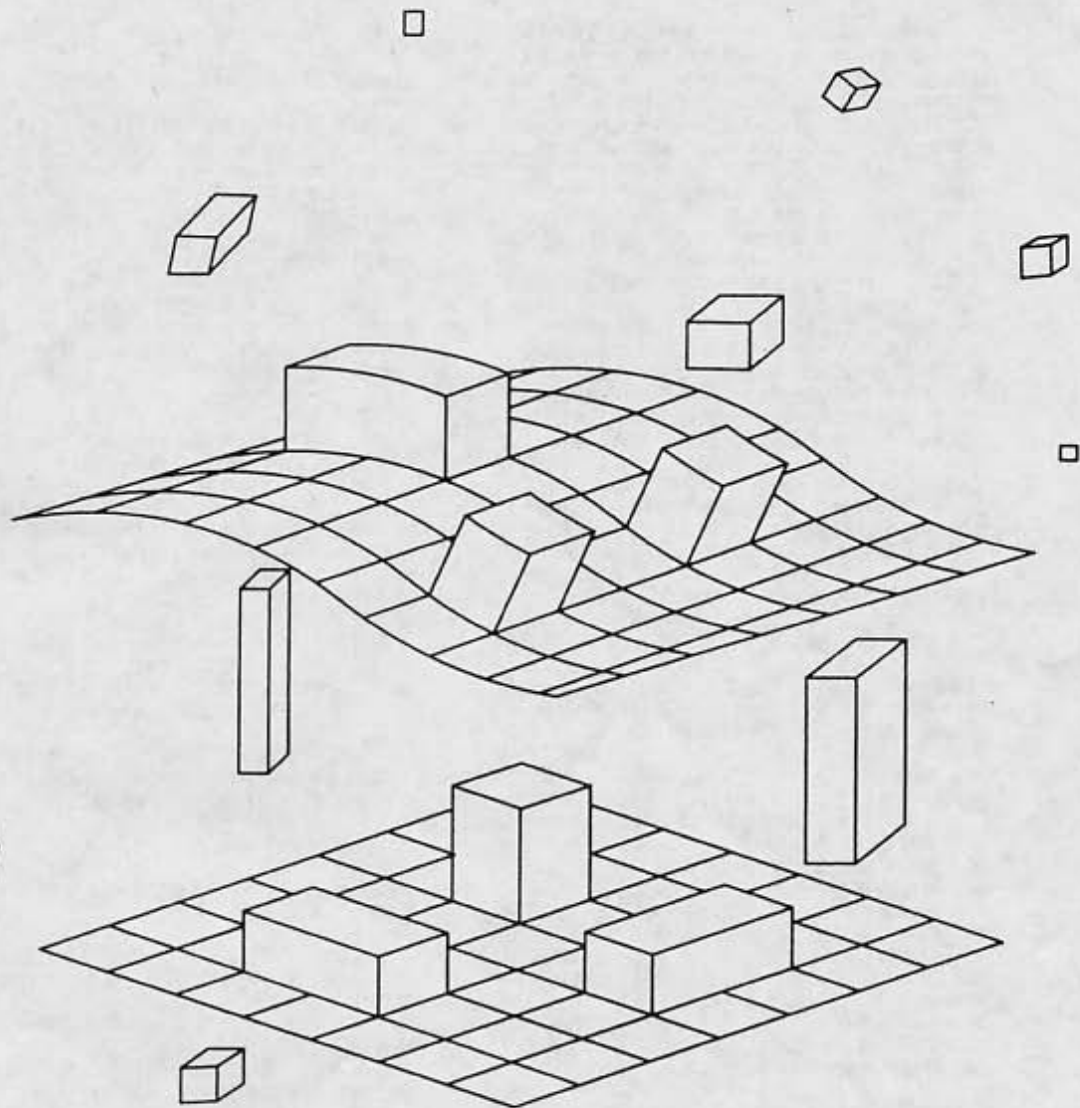


# ITSUMIKAI



## 目次

会長あいさつ	1
先生あいさつ	2
トピックス	3~4
五三会建築設計競技	5~9
広島工業大学建築・環境系教員名簿	10
五三会活動報告	11
五三会収支決算報告	12
五三會会則	13
編集後記	14

No. **33**  
平成18年度版



五三会会長  
梶山 孝之 (74年卒)

昨年から今年に駆けて、日本の日本らしい(?)事件が相次いでいます。建築環境系の学問を学び、その関連の各々仕事に従事している我々にとっては特に、信じられないほどの衝撃を与えた耐震設計偽造問題。多くの誰もが想像を絶するほどの呆れた事件ではありますが、現在の各業界に内在化しているであろう曖昧で不明確な構造の弱点が露呈した、人ごとと一蹴できない大事件です。それに次いで、あたかも誰かが仕組んだかのようなタイミングで発覚したライブドア事件。経済的ルールの弱点を突き、耐震偽装と同じく日本の経済構造の脆さ・弱さを露呈した巧妙且つ幼稚とも思える事件がありました。

需要者側と供給者側、及びそれらの間を仲介し流通させる側との間にある価値観や立脚点の差異。あるいは、それら三者間に交わされるルールを法律化する国側とそのルールを実用運用する民間側、及びそれらを管理・監視する検査機関との間にある立脚点の差異。これらの事件に共通するのは、その差異から得て起り易い“連携の不備・不確かさ・責任の曖昧さ”と思われます。これら立場の異なる三者各々が分節・分断化され高度情報化された現代日本社会の中で、だからこそ最も重要であり要とも思われるその“連携”の“曖昧さ・脆さ・弱さ”が一気に露呈したのがこれらの事件の共通性と思われます。

さてそんな状況の基で、広島工業大学・建築環境系同窓会「五三会」の7,500名を数える会員の皆様様、いかがお過ごしでしょうか。同じ建築環境系のことを学び合い、卒業した者同士の連携の場・機関であります同窓会「五三会(いつみかい)」に対して、皆さんはどんなイメージや考えを御持ちでしょうか?。あるいは、何を願い、何を期待されていますか?

これまでの36年もの間、諸先輩をはじめ多くの方々が紆余曲折しながらも“連携”し合って黙々と運営維持して来られた結果、今の「五三会」が存続しているものと思います。我々「五三会」の今後の行く末は、同窓生の一人一人の“連携”の如何にかかっています。今一度、自分自身が育った立脚点に立ち返って冒頭で述べました“連携の確かさ・大切さ”を各々で自覚しながら、その契機の一つでもあります広島工業大学建築・環境系の同窓会「五三会」のその意味を改めて問い直して頂き、「五三会」へのより積極的な御参加、御協力を節に御願致します。

時代と共に少しずつ活動内容も変化してきた事と思いますが、現在行われている主な活動内容としまして、主に次のようなものが在ります。

○「五三会・建築設計競技」：大きく門戸を開き、県内外の建築・環境系学科を有する大学・高専の間では、今やすっかり定着してきつつあります。平成17年度・第32回では、計60点の応募が在りました。学生諸氏の為にも、環境・建築への“啓発と動機付”を願ってこれからも続けて行きたいと思えます。

○「五三会・建築見学会」：学生諸氏と同窓生の皆さんで、近郊の建築等々を見て歩こうという企画です。時には設計者自らの説明を聞きながら見学することもあり、また見学後の質問タイムを設ける等して、参加者同士の交流をも計っています。

○「五三会・ホームページ」：平成13年度から開設し、五三会会員同士は勿論のこと、色々な方々と広く様々な情報交換をしていくことを主たる目的としています。

○「五三会・交流会」：五三会への新入会員歓迎会、同窓生と在学生の座談会・忘年会、その他の懇親会・交流会等が年に何度か開かれます。会員の皆様様の御好みに合わせて、是非ともまず参加してみて下さい。

○「五三会・懸賞制度」：建築・環境系の毎年の卒業設計の内から、最優秀なる作品を“学生大賞”として選び、卒業式の日に表彰しています。また、全国的な功績や評価があった同窓生の方々にも、その都度、五三会から表彰させて頂いています。

○「同窓会・五三会名簿」：この整理作業は、地味で、根気の要る作業です。しかしながら、誰かが少しずつでもまとめておかないと迷宮入りしそうなことです。

○「ITUMIKAI」：年一回の会誌を発刊しています。五三会のホームページを開設して以来、経費節約もあって五三会の活動状況を最低限御伝えしています。

最後に、「五三会」の諸活動に対し多大なる御協力を頂きました各大学の先生方、学生の皆様、諸官庁の方々、そして会報誌のスポンサー協力をして下さいました各企業の皆様方には、心から御礼を申し上げます。

今後とも「五三会」の主旨を御理解をいただき、御協力の程を宜しく御願致します。

## 先生あいさつ

## 学生との関わり方



岩井 哲

平成10年4月に工学部建設工学科（建築工学コース）に赴任したので、在籍丸8年になります。建築系学科の同窓会としての五三会は、私にとってまだ建設工学科・土木工学系の広土会ほど馴染みではありません。これからよろしくお願ひします。この度、大学は平成18年4月より、これまでの2学部8学科から3学部12学科という新しい編成で開始します。建築に関わる学科は、私の所属する工学部では建設工学科から土木系の都市工学科（定員80名）と分かれた「建築工学科」（定員80名）と、環境学部ではこれまでの環境デザイン学科から新しい「環境デザイン学科（同名）」

（定員90名）と「地域環境学科」（定員80名）の2つに改組されることになりました。既に昨年11月・12月に特別選抜（推薦）入試が終わり、今年1月から3月にかけて、一般入試（A・B・C）が実施されています。文部科学省の認可を受けてから正式なものとなるため、まだ高校生への十分な活動・周知がなされていない状況かも知れませんが、新しい態勢においても新入生の確保は厳しいのが現状のようです。

「ゆとり教育」を受けてきた新しい人たちは、勉強とは楽しく学ぶことにあり、これまでも増して「頑張る苦勞して身につけるもの」という感覚はありません。ところが卒業後の社会においては、一人前の知識とか能力とかも大事ですが、人一倍のやる気を見せる者が期待され求められます。自ら意欲を高めたり、その気になれない人材は、まず就職活動でさえも思う通りにならない（従って、使えない）という現実が待っていることに気づかせるよう、教員側で細かい配慮が必要なようです。

いま「質問する力」（大前研一著、文春文庫、平成17年3月刊）という本を読んでいます。なかなか含蓄に富む内容が書かれています。要は、今の日本人に「質問する力」が足りないと言うのです。政府やマスコミや評論家の言うことを鵜呑みにするのではなく、まず自分の頭で考え、疑問点があれば、とことん追求し、自分で納得してから決断する。そうした「質問する力」が現代を生きる上でますます重要になっていることを説いた本

です。1教員として、学生にはひとの話を鵜呑みにしないで、まず「疑うこと」、自分なりに「納得すること」を大学でうまく教えることができればと思う次第です。

この数年間、建設工学科の建築工学コースと社会建設工学コース（いわゆる土木工学）と、環境デザイン学科の3年生後期の学生を対象に、「都市防災システム」という講義を受け持ってきました。各学科で100名超、合わせて200名から250名の履修登録学生を相手に、大講義室で、パソコン・パワーポイントとビデオ映像を使って、地震・台風・土石流といった自然災害から火災・パニックといった様々な災害を扱い、基礎的知識とその対策に関する体系的な知識を身につける目的で、毎回完結型で15回持つものです。毎回、終わりの10分間に小レポートと称して、その日の講義のポイントを2〜3まとめさせ、意見を書かせます。各学科で受講時の態度や小レポートの内容から、学生気質の違いが感じられます。建設工学科の学生は、概しておとなしく（聞いており？）、小レポートは短く淡々としています（あまり面白味のないものが多い）。一方の環境デザイン学科の学生は、講義室の後ろに座って勝手な雑談が多く、注意してもあまり聞かない。建設工学科の学生と違って、自由奔放に育っているというか、つけられていない印象を持ちます。ところが小レポートは目一杯書くし、表現力があるように見受けられます。工学志望とデザイン志望の差が、若干出ているように見えます。防災は自意識を持つこと、建設（建築）は人の命を預かるため仕事でウソをつかないことを教えています。この講義は選択科目で、しかも3年後半ですから単位が足りていて興味のない学生は徐々に減っていきますが、結構200名前後は終いまで関わっていて、最後の講義のアンケートでは、「受けて良かった」と言ってくれる学生が両学科に必ずいます。それで私も気が済むように感じています。

## トピックス

## 平成17年度 五三会学生大賞 決定

今年度の環境デザイン学科・建設工学科（建築工学コース）の卒業設計作品の中で、五三会顕彰制度認定事業委員会が審査を行い、優秀と認められた学生に対し表彰を行います。

## 平成17年度 五三会学生大賞

受賞者：原山 大

環境学部環境デザイン学科 村上研究室

作品名：Patchwork

## 平成17年度 コンペ入選者

2月現在での在学生のコンペ受賞状況です。  
今年度も、全国のコンペに多数入選しております。

表記：コンペ名

受賞名・受賞者

所属

## 第9回飛騨・高山学生家具デザイン大賞

銅賞 池上 大地

大学院 環境学研究科地域環境科学専攻 2年

## 住まいのインテリアコーディネートコンテスト2005

支部長賞 谷尾 尚隆

大学院 環境学研究科地域環境科学専攻 2年

## 第一回ダイワハウス設計コンペ

佳作 谷尾 尚隆

大学院 環境学研究科地域環境科学専攻 2年

## 第一回 DoCoMo“ケータイ空間”デザインコンペ

優秀賞 植田 開、植田 瞳

大学院 環境学研究科地域環境科学専攻 1年

## 05年度日本建築学会設計競技

佳作 塚川 謙、植田 開、植田 瞳

大学院 環境学研究科地域環境科学専攻 1年

## 省エネルギー住宅設計コンペティション 2005

「夏涼しく冬暖かい住まい」

佳作「新建築住宅特集」賞 川淵俊太郎、鈴木由美子

川淵：大学院 土木工学専攻1年、鈴木：建設工学科建築工学コース4年

## トータテハウジングコンペ

2等 植田 瞳、藤谷 遼介、花岡 芳徳

植田：大学院 環境学研究科地域環境科学専攻1年、

藤谷：環境デザイン学科4年、花岡：環境デザイン学科 3年

## トータテハウジングコンペ

3等 山内 雅史、田中 祐貴

環境デザイン学科 4年

## 平成17年度 五三会建築見学会

今年度は三次市三良坂町灰塚地区の建築を見学に行きました。メインの見学場所である三次市立灰塚小学校の設計者で、広島工大の非常勤講師としても活躍の西宮善幸先生（建築学科75年卒）に、直接ご案内いただける機会に恵まれました。OBと在学生、総勢35名の参加をいただき、実りある晩秋のひと時を過ごすことができました。

開催日時：平成17年11月25日

見学場所：

三次市立灰塚小学校

（設計：西宮善幸建築設計事務所）

ハイヅカ湖畔の森コテージ

（設計：トム・ヘネガン）

陶芸学習舎

無縁墓地

アースワークセンター

（設計：吉松秀樹+アーキプロ）



## 灰塚小学校を見学して

永島 武昌  
環境デザイン学科4年

今回の五三会建築見学会は身近な建築家の方の作品・お話を聞かせていただけるなど、僕自身大変貴重な体験をさせていただいたと思っております。灰塚小学校では、西宮善幸先生から地域に開かれた場としての学校を計画されたとお話を聞かせていただきました。実際に小学校内では平日にも関わらず地域のお年寄りの方達が訪れ、子供たちと調理室で活動をなさっておられました。また、子供たちの明るい笑顔と大きな声でのあいさつが僕たちを暖かく迎えてくれました。地域の人たちと共に学ぶ学校が、世代を超えた人間形成の場となりうるのだと僕は体験できたと思います。まるで大きな家のような灰塚小学校は、西宮先生の“設計”が体現されていると感じさせていただきました。



## 建築見学会に参加して

隅田朋子・宮崎ゆずり  
環境デザイン学科4年

### 灰塚小学校

印象に残った場所・物…鋭角の屋根面と曲線の融合 玄関口から校舎を繋ぐ軸線 仕切りによって空間を自由に变化・構成できる校舎内 気候・地域性を考慮した素材と建材 地域住民への施設の開放 学年ごとで教室内の色の变化 図書やトイレの採光窓（トップライト）の色使い

### 無縁基地

金属の棒の連続が、意味をもつ空間・区切りを形成することを実感した。風は通り抜け、景色への邪魔もしないのに、ひとたび足を踏み入れると今までの感覚を失い、全く違う空間に入り込んだような圧迫感を感じた気がした。仕組みが空間を形成した瞬間を感じた気がする。

### アースワークセンター

ポリカーボネートのような素材の外部素材と黒い木材フレームの四方の入口が印象的でした。異素材と小規模のスケールの建築物。

### ハイヅカ湖畔の森コテージ

灰塚ダムと紅葉が綺麗だった。深緑色のキューブ状のコテージは、屋上への階段が遊具の役割を持っているようで、存在だけで楽しいものと感じられた。周辺の森林を配慮した深緑色が、紅葉に映えて美しかった。

### 陶芸学習舎

建物の良さと、実用性が反比例しているようで残念に思った。

## 第32回五三会建築設計競技結果報告

課題：ケハイと住む家

32回目となる本年度事業は、課題を「ケハイと住む家」と題し行われました。

昨年と同様、審査員には若手建築家として現在ご活躍の、俵博紀先生、中村勝己先生、西尾通哲先生そして藤本寿徳先生の四人の先生方をお願いいたしましたところ、みなさんご多忙にも関わらず快くお引受け下さりました。

本年度も、準備の不適際から応募期間を十分に設けることができませんでしたが、昨年12月12日に応募締切を迎え、広島工業大学をはじめ、諸大学、高専から昨年度よりも多い計60作品にも及ぶ力作が寄せられました。

12月18日に広島市まちづくり市民交流プラザ内のギャラリーにおいて、審査員の先生方にお越しいただき、応募された学生の皆さんや広島でご活躍中の建築家の先生方など約50名以上が見守る中、公開審査会が執り行われました。

審査は五三会幹事長で建築家としてご活躍の平田欽也先生をコーディネーターをお願いし、審査員の先生方は応募作品一つ一つに講評を与えながら、非常に丁寧な審査をして頂きました。応募総数の多さもさることながら、どの応募作品も力作揃いで甲乙つけ難く、大変悩まれたご様子でした。審査結果は別記の通りとなりました。

入選の皆さん、おめでとうございます。

残念ながら誌面の都合により、ここでは入選作品の紹介のみに留まらせて頂きますが、応募された作品はどれも、一生懸命に取り組まれた様子が感じられました。審査会終了後は、入選となった方々と審査員の先生方との意見交換が行われるなど、とても有意義な一時を過ごすことができ、先生方と出席された学生の方々も喜ばれていたようでした。

今後とも、この設計競技がより発展してい

きますよう、皆様方の一層のご理解とご協力をお願い致します。

最後になりますが、先生方にはこの建築設計競技事業にご理解を頂き、ご多忙の中審査、講評そして座談会にと貴重なお時間を割いて頂きましたことお礼申し上げます。

また、本年度事業も時間的余裕のあまりないスケジュールでしたが、遠方を含み多くのご応募をいただき、応募してくださった皆様にお礼申し上げます。

ご参加ありがとうございました。

以上にて、本年度建築設計競技事業の報告を終わります。

### 審査結果（敬称略）

#### 最優秀賞

藤谷 遼介 原山 大 相川 晋吾  
(広島工業大学 環境学部環境デザイン学科)

#### 優秀賞

小川 春奈  
(穴吹デザイン専門学校 建築・インテリアデザイン学科)

#### 準優秀賞

楠部 翔一 鈴木 崇久 永島 武昌  
(広島工業大学)

#### 依賞

後藤 真 小早川 友樹  
(福山大学大学院 工学研究科建築学専攻)

#### 中村賞

加藤 哲史  
(広島大学大学院)

#### 西尾賞

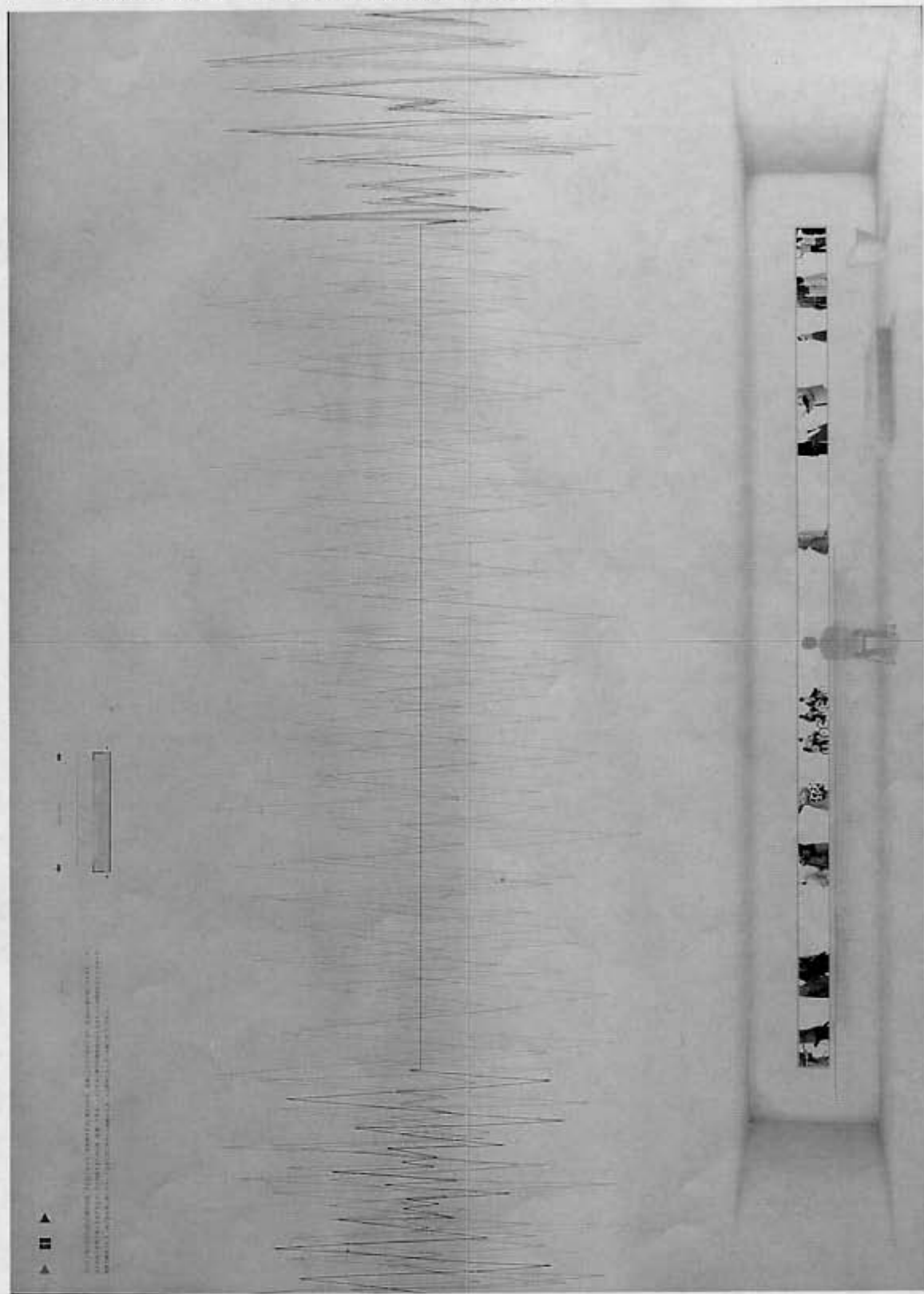
宝蔵寺 一憲 村岡 大祐  
(広島大学大学院)

#### 藤本賞

吉原 啓輔  
(広島工業大学 環境学部環境デザイン学科)

## 最優秀賞

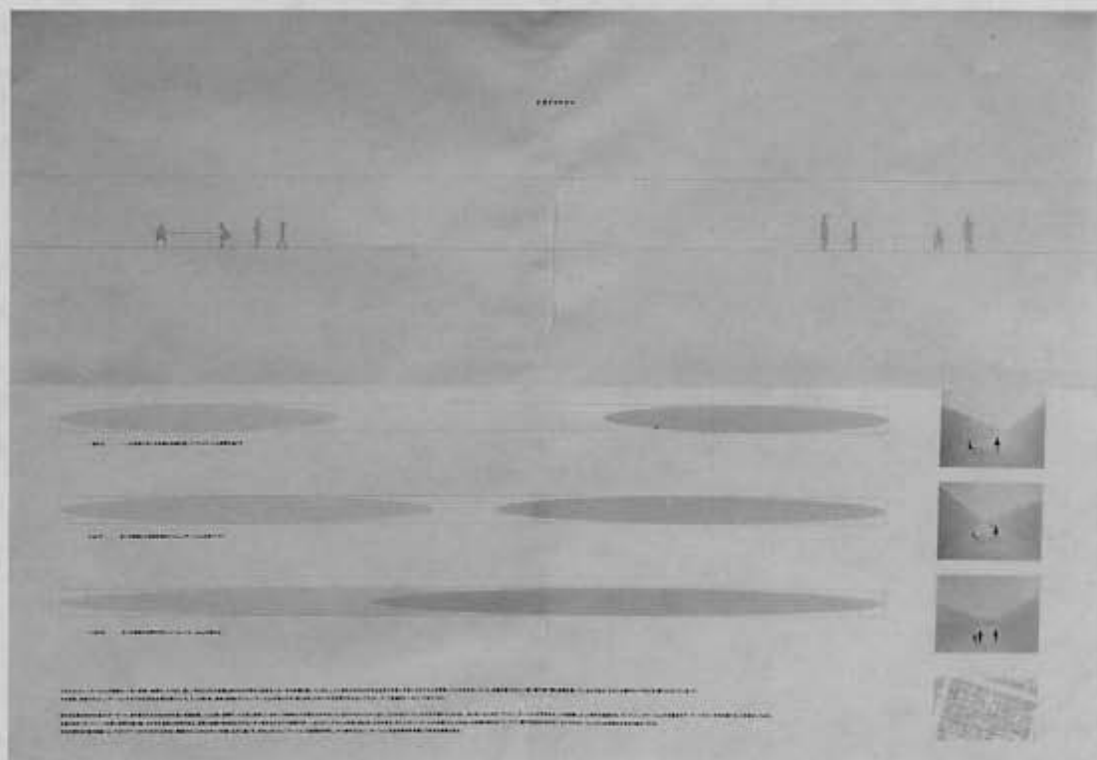
藤谷 遼介 原山 大 相川 晋吾  
(広島工業大学 環境学部環境デザイン学科)



優秀賞

小川 春奈

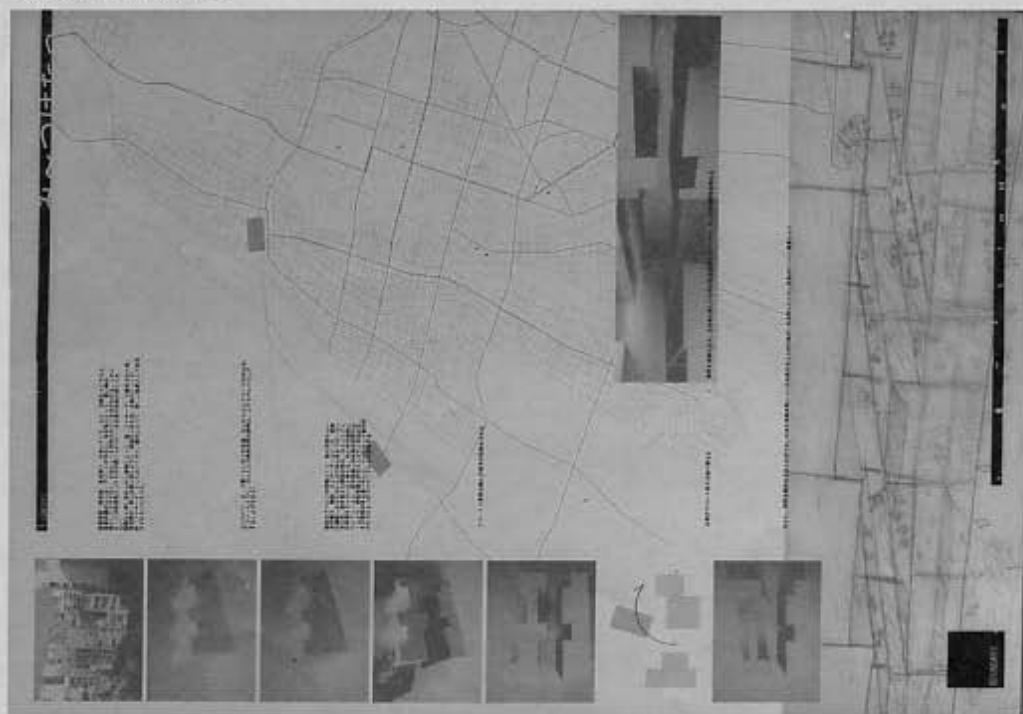
(穴吹デザイン専門学校 建築・インテリアデザイン学科)



準優秀賞

櫛部 翔一 鈴木 崇久 永島 武昌

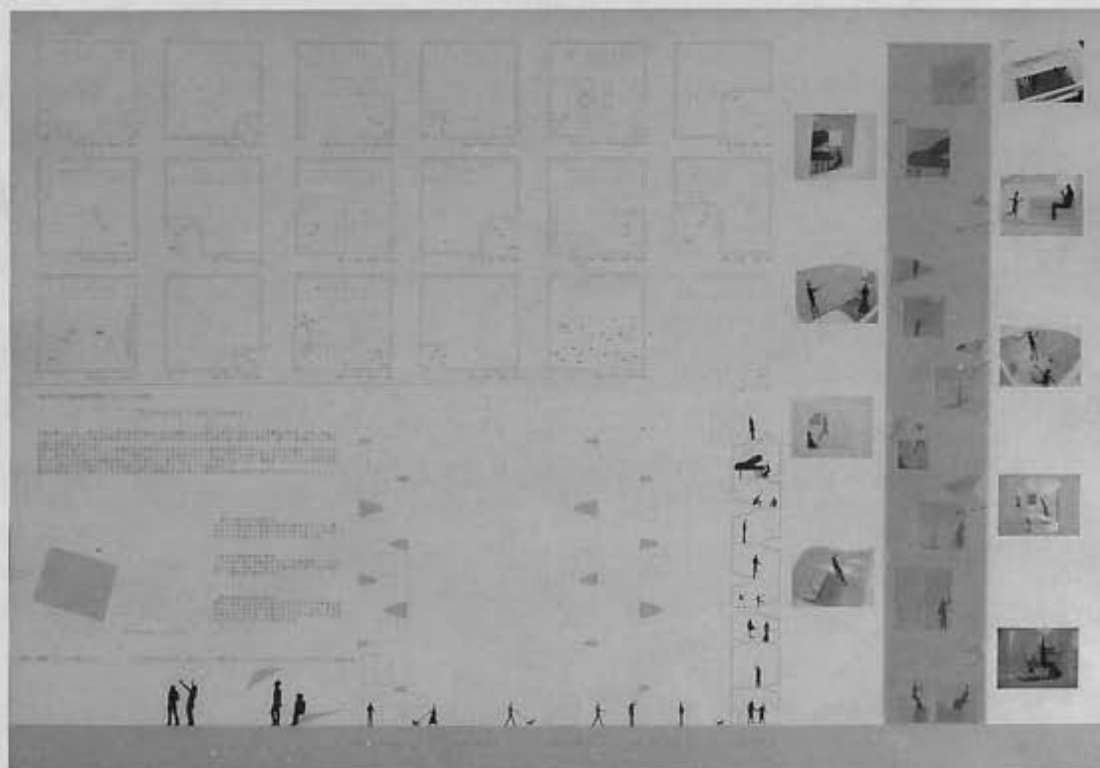
(広島工業大学)





## B 俵賞

後藤 真 小早川 友樹  
 (福山大学大学院 工学研究科建築学専攻)



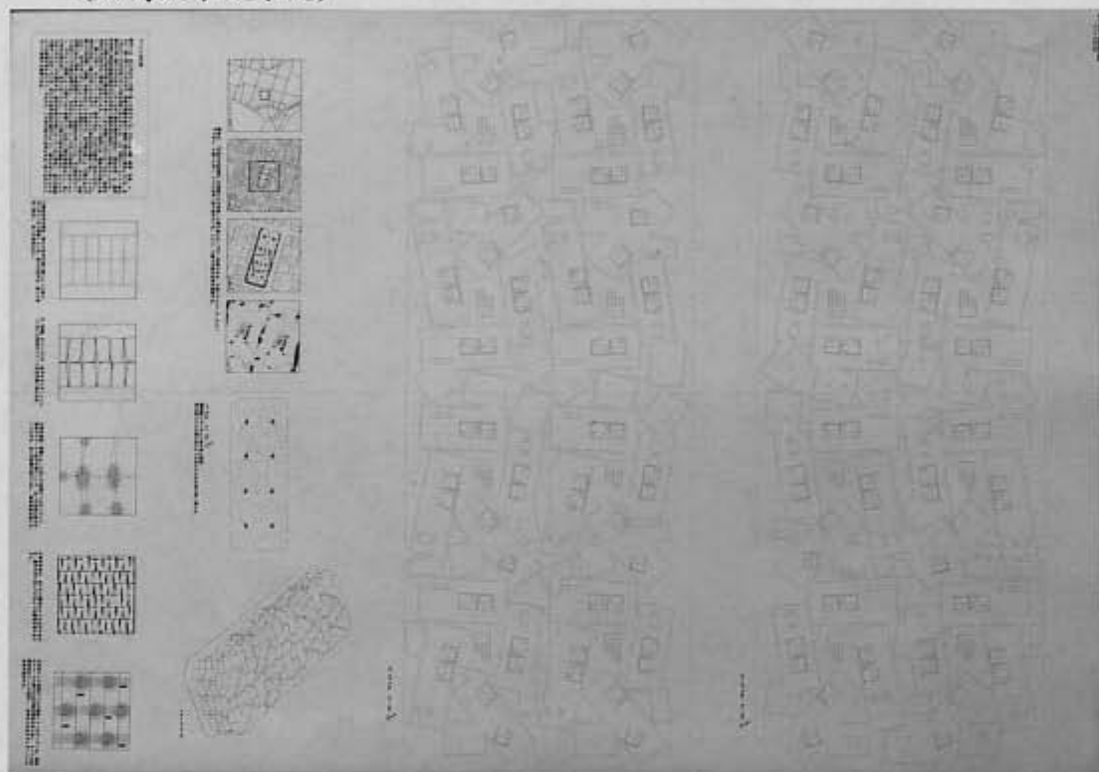
## B 中村賞

加藤 哲史  
 (広島大学大学院)



西尾賞

宝蔵寺 一憲 村岡 大祐  
(広島大学大学院)



藤本賞

吉原 啓輔  
(広島工業大学 環境学部環境デザイン学科)



広島工業大学 建築・環境系教職員名簿

氏名	住所	郵便番号	電話番号
<b>[建設工学科 建築工学コース]</b>			
佐藤 立美			
高松 隆大			
宮崎 祐助			
浅野 照雄			
岩井 哲			
清田 誠 <small>のぶ</small> 良			
福田 由美			
玉井 宏 章			
大林 真			

<b>[環境学部 環境デザイン学科]</b>			
水田 一 征			
篠原 一道 <small>ひろ</small> 正			
森保 洋 之			
菅原 辰 幸			
野添 久 視			
黒岩 俊 介			
久保 泉			
上嶋 英 機			
村藤 上 徹			
佐川 藤 洋			
西川 川 加 <small>か</small> 補			
廣川 越 協 一			
手三 村 義 昭			
三脇 好 泰 臣			
平田 田 孝 尚			
杉田 田 祥 子			

## 五三會活動報告

平成17年(2005年)度「五三會」の活動

幹事長 平田 欽也 (85年卒)

### □「五三會」總會

- ・前年度の活動報告や決算の報告
- ・次年度の計画案・予算案の検討、役員改選  
平成17年4月16日  
場所：アステールプラザ

### □幹事会

- ・役員及び事業委員が各事業の遂行について話し合う  
平成17年度は5回の幹事会を開催  
場所：アステールプラザ他

### □卒業生(五三會)を講師とした業界研究

- ・大学主催の学生ガイダンスに協力  
平成17年5月11日  
場所：広島工業大学1-402

### □交流事業部会

- ・学生との交流会の開催  
平成17年5月11日  
場所：広島工業大学 大学会館5階ラウンジ
- ・忘年会の開催  
平成17年12月3日  
場所：カルネイン(パセーラ10階)

### □デザイン活動推進事業部会

- ・「五三會」建築見学会の開催  
平成17年11月25日  
場所：三次市立灰塚小学校他  
設計：西宮善幸建築設計事務所
- ・「五三會」建築設計競技の開催  
公開審査会・表彰式  
平成17年12月18日  
場所：広島市まちづくり市民交流プラザ  
審査員：俵博紀氏、中村勝巳氏、  
西尾通哲氏、藤本寿徳氏

### □広報事業部会

- ・会報誌「五三會」第32号の編集、発行
- ・五三會ホームページの更新、管理

### □広告担当

- ・会報誌「五三會」とホームページに掲載  
いただく広告依頼者との調整

### □「五三會」名簿管理担当

- ・「五三會」正会員名簿の更新、管理
- ・会報誌の送付

### □顕彰制度認定事業委員会

- ・五三會栄誉賞の認定
- ・五三會学生大賞の認定

「五三會」では、これまで会員相互あるいは在学生との交流事業としまして、交流会や忘年会、建築見学会などを行ってまいりました。また、今年で32回を数える五三會建築設計競技は、しっかりと学生に定着した事業として成長して参りました。数年前より、環境学部環境デザイン学科の学生部会「匠会」の活動がスタートしたのをきっかけに、これら五三會行事に多数の在学生が参加いただけるようになりました。在学生のみなさんと交流することは、卒業生にとってもよい刺激になり、若いパワーをいただける気がします。

また本年度は、大学側から五三會へ要請があり、「卒業生(五三會)を講師とした業界研究」というテーマの学生ガイダンスに協力いたしました。主に、これから就職活動をする環境デザイン学科3年生の学生を対象に、さまざまな職種で活躍している卒業生が講師となり、自分達の仕事について具体的な話をして欲しいというものでした。五三會会員の中から、設計事務所、行政、ハウスメーカー、ゼネコンの各分野で活躍されている30歳代の方々に講師をお願いしまして、在学生に自分達の仕事に対する熱い思いを話っていただきました。

五三會は4月で創立37年を迎え、世代層が厚くますます充実してまいりました。時には世代を超えて在学生と交流することで、学生時代を思い出してはいかがでしょうか。五三會行事につきましてはホームページでご案内しております。また、会員からの投稿情報、講演会やセミナーなど、会員の皆さまに役立つ情報も発信しております。まだ、ご覧いただけてない方は、是非一度検索してみてください。

URLは<http://www.itsumikai.jp/>です。

### 平成17年度役員

(会 長)	梶山 孝幸 (74年卒)
(副 会 長)	松田 智仁 (80年卒)
	落合 木堂 (81年卒)
(会 計)	田中 義登 (88年卒)
	木下 和夫 (88年卒)
(会計監査)	松本 孝志 (77年卒)
	神垣 聡志 (86年卒)
(書 記)	奥野 功貴 (92年卒)
	小瀬 宏治 (94年卒)
(幹 事 長)	平田 欽也 (85年卒)
(副幹事長)	三島 久範 (85年卒)
(顧問)	山野 正晴 (79年卒)

### 【五三會事務局】

〒731-5193  
広島市佐伯区三宅2丁目1-1  
広島工業大学環境学部環境デザイン学科  
菅原研究室内 TEL 082-921-3121

## 五三会収支決算報告

平成17年度収支決算報告

(平成18年3月1日現在)

◆収入の部			(単位 円)
繰	越	金	5,139,904
新	員	費	605,850
会	告	料	170,000
広	収	入	199,612
利			
息			
合		計	6,115,366

◆支出の部			(単位 円)
会	議	費	51,490
バ	ト	品	98,750
名	成	消	5,868
簿	作	耗	32,525
印	刷	費	1,190
金	機	料	3,520
雑	関	費	91,800
広	報	費	218,295
会	誌	費	132,210
会	報	費	51,450
広	告	費	380,236
デ	イ	費	4,200
企	画	費	87,840
交	流	費	3,398
学	生	品	30,000
予	備	費	4,922,594
繰	越	金	
合		計	6,115,366

平成18年度収支予算(案)

◆収入の部			(単位 円)
繰	越	金	4,922,594
新	員	費	800,000
会	告	料	210,000
広			
合		計	5,932,594

◆支出の部			(単位 円)
会	議	費	100,000
バ	ト	品	90,000
名	成	消	10,000
簿	作	耗	40,000
印	刷	費	1,000
金	機	料	10,000
雑	関	費	100,000
広	報	費	250,000
会	誌	費	150,000
会	報	費	60,000
広	告	費	350,000
デ	イ	費	50,000
企	画	費	100,000
交	流	費	30,000
学	生	品	100,000
予	備	費	4,491,594
繰	越	金	
合		計	5,932,594

## 建築学科記念事業基金収支決算報告

平成17年度収支決算報告

(平成18年3月1日現在)

◆収入の部			(単位 円)
繰	越	金	1,207,703
利	息	入	19
合		計	1,207,722

◆支出の部			(単位 円)
雑		費	0
在	学	流	111,169
在	学	成	100,000
繰	越	金	996,553
合		計	1,207,722

平成18年度収支予算(案)

◆収入の部			(単位 円)
繰	越	金	996,553
合		計	996,553

◆支出の部			(単位 円)
雑		費	10,000
在	学	流	100,000
在	学	成	150,000
繰	越	金	736,553
合		計	996,553

# 広島工業大学建築・環境系同窓会

## 「五三会」会則

### 第一章 総則

- 第1条 本会は、広島工業大学建築・環境系（以下「五三」と称す）の卒業生、及びその関係者（以下「関係者」と称す）の相互の連絡並びに互助を目的として、この会則に基づき、かつ母校の建築・環境系学科の発展に貢献することを目的とする。
- 第2条 本会は、本会員の相互の連絡並びに互助を目的として、この会則に基づき、かつ母校の建築・環境系学科の発展に貢献することを目的とする。
- 第3条 本会は、本会員の相互の連絡並びに互助を目的として、この会則に基づき、かつ母校の建築・環境系学科の発展に貢献することを目的とする。
- 第4条 本会は、本会員の相互の連絡並びに互助を目的として、この会則に基づき、かつ母校の建築・環境系学科の発展に貢献することを目的とする。
- (1) 集金  
(2) 相互の連絡並びに互助に関する事  
(3) 会員の相互の連絡並びに互助に関する事  
(4) 母会に対する精神的、物質的援助  
(5) 会員の功績に対する顕彰  
(6) その他本会の目的達成に必要な事

### 第二章 会員

- 第5条 本会は下記の者を以て組織する。
- (1) 正会員 広島工業大学建築・環境系卒業生（大学院を含む）のうち会費を納入した者
- (2) 学生会員 広島工業大学建築・環境系卒業生（大学院を含む）のうち、本会に加入し、本会に加入する旨を申請し、承認された者
- (3) 特別学生会員 本会に加入し、本会に加入する旨を申請し、承認された者
- (4) 名誉学生会員 本会に加入し、本会に加入する旨を申請し、承認された者

### 第三章 役員

- 第6条 本会は下記の役員を置くことができる。
- (1) 名誉会長 1名  
(2) 会長 1名  
(3) 副会長 2名  
(4) 会計監査 2名  
(5) 幹事長 1名  
(6) 幹事 2名  
(7) 書記 2名
- 第7条 本会の役員は次の方法で決める。
- (1) 名誉会長は総会をもって推す
- (2) 会長、副会長、幹事長、会計監査、書記は総会で正会員の中から選ぶ
- (3) 幹事は総会の決議により正会員の中から委嘱する
- 第8条 各役員はそれぞれ次の任務を持つ。
- (1) 会長 本会を代表し、会務を総括する
- (2) 副会長 会長を助け、支障がある場合は代理する
- (3) 会計監査 会計事務に当たら
- (4) 幹事長 会務を主宰する
- (5) 幹事 会務に当たら
- (6) 書記 書記事務に当たら
- 第9条 役員は任期一年とし、再任を許す。ただし、役員は役員会に於て補充し、これによって就任した者の前任者の残りの期間とする。

### 第四章 顧問

- 第10条 この会に顧問は若干名をおく。
- (1) 顧問は総会の決議により適任者を委嘱する
- (2) 顧問は会の諮問に応じる

### 第五章 会議

- 第11条 会議を分けて定期総会、臨時総会、役員会及び事業委員会とする。
- 第12条 総会は最高議決機関で毎年1回開く。臨時総会は役員会が必要と認められた時、会長が召集する。
- 第13条 総会は次のことを決める。
- (1) 会則の変更と改正  
(2) 決算及び予算  
(3) 事業委員会の組織  
(4) その他緊急事項の協議
- 第14条 役員会は会長が認めた時召集し、次のことを決める。
- (1) 総会に附随する原案  
(2) この会の運営に関する諸事項  
(3) 事業委員会の組織  
(4) その他緊急事項の協議
- 第15条 事業委員会は必要に応じて役員により組織し、第4条に掲げる事業についてその事務を処する。
- 第16条 会議の議決は出席者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する。

### 第六章 会計

- 第17条 この会の経費は会費、寄付金及びその他の収入を以てする。
- 正会員は終身会費として、入会時に10,000円を納入しなければならない。
- 第18条 この会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

### 第七章 委任事項

- 第19条 この会則に定めのあるもののほか、必要な事項は役員会においてこれを定める。

### 付則

- 本会則は、平成8年度から施行する。旧会則で正会員であったものは、本会則における正会員に移行する。

## ：「五三会」第33号（平成18年度）スポンサー一覧

(順不同)

山本窯業化工 株式会社  
株式会社 INAX 中国支社  
株式会社 島屋  
東陶機器株式会社 中国支社  
シンコー広島 株式会社

J F E 鋼板株式会社 中国営業所  
広島菱重興産 株式会社  
正田建設 株式会社  
株式会社 日立ビルシステム中国支社  
日成建設 株式会社

## ：編集後記

会報誌発行にあたりご寄稿下さった方々、スポンサーの皆様に御礼申し上げます。  
また、いつも五三会会報誌発行にあたりご支援頂きまして有り難うございます。  
会報誌がいつまでも続いて行けるように、これからもがんばっていきたいと思います。  
ご協力の程、宜しくお願い致します。

## ：五三会ウェブサイト（ホームページ）

URL ☞ <http://www.itsumikai.jp/>

### 「五三会」第33号編集委員

平田 欽也（85年卒）  
三好 征一（97年卒）

### （連絡先）

五三会事務局  
広島市佐伯区三宅二丁目1番1号  
広島工業大学環境学部環境デザイン学科  
菅原研究室内  
(731-5143) 082-921-3121 (代)

### 広島工業大学建築・環境系同窓会会誌 「五三会」第33号

編集責任者 平田 欽也  
発行責任者 梶山 孝之  
企画・制作 ハローデンイン株式会社  
有限会社工房知の匠  
発行 平成18年3月